

# 学生ダイアリー

作・小佐部 明広

## 【登場人物】

植村 望（うえむらのぞみ）	………	大学4年生。イベントサークル「寿」所属。
大橋 実里（おおはしみのり）	………	大学4年生。イベントサークル「寿」所属。
篠原 幸恵（しのはらゆきえ）	………	大学4年生。イベントサークル「寿」所属。
蔵元 優太（くらもとゆうた）	………	大学4年生。元写真部。望の恋人。
重野 誠（しげのまこと）	………	大学4年生。写真部。
柳田 卓哉（やなぎだたくや）	………	大学4年生。写真部。
谷川 信平（たにかわしんぺい）	………	卒業留年。法学部。イベントサークル「寿」卒業。
郭 曉偉（かくしょうい）	………	中国人留学生。卒業生。

2017年。札幌のとある大学のサークル会館の休憩スペース。古くなってきたため、この休憩スペースの辺りは近く取り壊されることが決まっている。建物の別の箇所にはパンの自動販売機があるらしい。

イベントサークル「寿（ことぶき）」は、主催のイベントを目前に控えている。活動の中心は2年生で、4年生のメンバーは比較的ゆつくりしている。

一方この頃、日本と北朝鮮は緊張状態にあった。北朝鮮が日本本土近くの海にミサイルを撃つたのである。国会では北朝鮮に先制攻撃が可能となるように憲法9条を改正すべきだという議論になっている。外では憲法9条改正反対デモが行われていた。

開演5分前。

信平と郭が話しながらやってくる。

信平 へえ、

郭 サソリも食べるし。

信平 なんでも食べるんですね本当に。

郭 まあね、

信平 何食べないんですか、逆に、

郭 うーん、でも、だいたい食べるよ。好き嫌いが多いんだよ、日本人は。

信平 、なるほどね。(腕時計を見て) まだ来てないみたいですね。

郭 うん。

信平 結構、集合の10分前くらいには来る人なんですけど。

郭 ああ、そうなんだ。しっかりしてる人だね。

信平 ええ。あ、そうか。もしかしたら、別のところ行っちゃってるかもしれない。あの、もう1か所、ここと似たような場所あって、も

しかしたら、そっちで待ってるかもしれない。

郭 ああ。

信平 ちよつとすみません、

信平、電話をかけるが、相手は出ないようだ。

信平 ちよつと見てきますね。

郭 メールしとけば。

信平 や、全然メール見ない人なんですよ。すぐそこなんで、ぱっと行ってみて、

郭 ええ。

信平は去っていく。

郭はスマートフォンを取り出しじり始める。

しばらくして、開演。

少しして、望と実里が話しながらやってくる。

望　なんか、ウチに変な電話来たんだってね。

実里　ああ、

望　こんなときにどんちゃん騒ぎするとはなにごとだ、って。「どんちゃん騒ぎ」っていつの言葉だよってね、

実里　（望が話している途中で）そんなこと言ったって、こっちの予定だって3ヶ月前から決まってたんだからねえ。

望　ねー、文句あんなら北朝鮮に言えよって。

実里　アハハ、やばいねそれ、

望　；、大丈夫かなあ、今の下のやつら。なんか、頼りないよなあ。

実里　（途中で）んー、まあねえ、

望　結構、ギリギリみたい。

実里　そうなんだ。

望　予算とか、日程とか、書類とか。

実里　大丈夫なの？

望　どうかなあ、もしかしたら色々間に合わないかもしれない。

実里　（途中で）まあ、あたしたちは、4年生は頼まれたこと手伝うだけだから、2、3年がどれだけやるかでしょ。

望　なあんかなあ、

実里　まあまあ、

望　（実里のネックレスを見て）今日おしゃれなのつけてるね。

実里　ん？ あ、気付いた？ いいでしょ。

望　結構高そうだね。

実里　うん、これはね、さんまん、にせん、

望 (さんまんのあたりで) ウソ、すごい、  
実里 でしょ？

望 どうしたの、そんなの買って。

実里 んー、おしゃれなの欲しいなと思って。

望 へえ、すごい、

実里 でしょでしょ？

望 あたしとか、いかに安くしておしゃれに見えるもの買うか、みたいなところあるから。

実里 (途中で) あはは、すごいでしょ？ やっぱ、大学生ってオシヤレするのが仕事じゃん？

望 (途中で) やばいほんと、なんなのマジ、

実里 、痩せた？

望 え、あたし？

実里 うん。

望 本当？

実里 えなにダイエットでもしてんの？

望 うん、、まあ、うん、

スマートフォンのお知らせ。

実里はスマートフォンいじりはじめる。

それを見て、少しして望もスマートフォンをいじりはじめる。

誠がやってくる。

卓哉がやってくる。

卓哉 お疲れです。

誠 お疲れ。

卓哉 元気にやってますか。

誠 それが、元気じゃないんだよ。

卓哉 お、どうしたの？

誠 日本の将来のことを考えると夜も眠れなくて。

卓哉 嘘つけよ、

誠 いやいや嘘じゃないよ、

卓哉 日本のこととかお前に関係ねえだろ、

誠 いや、一日本国民としてね、日本の将来を大変心配してるわけ

だよ。

卓哉 じゃあまず就活をしろよお前は。

誠 それとこれとは話が違うじゃない。

実里 (卓哉たちの就活話をきいていて) ねーねーどうなんすか就活。  
望 まあ、面接受けてるけどねえ、文学部に就職先なんてないっ  
すねえ。

実里 あはは確かに、

望 実里は？

実里 、辞めちゃった。

望 え辞めたの？

実里 この前、圧迫面接にあつてさあ、

望 えうそ？

実里 実里つてすごくパン好きじゃん？ だからパン屋の面接受

けたんだよね。そしたらその面接で、将来やりたいことやこうな  
りたいというものはありますか？ってきかれたの。

望 うん、

実里 だから、実里小説とか読むの好きだし、将来は小説家になっ  
て、一発当てて印税で暮らしたいです。っていったの。

望 うん、

実里 そしたら、どうして小説家になりたいのに、ウチらのような  
パン屋で働きたいのですかってきかれてさあ。

望 うわ、そんなときかかれたんだ。

実里 ね、小説家になりたい人はパン屋で働いちゃダメなのって、

望 うわあ、こわ。

実里 ね。なんか、こんな人と働きたくないなって思つて。

卓哉 違わねえだろ。

誠 だから俺はね、ニートという立場から日本を心配しようと、そ  
うわけじゃない。

卓哉 どういうわけだよ。

誠 そんなこと言ったら、お前だって就活してないじゃない。

卓哉 俺は考えがあつてしないんだよ。

誠 なんだそりゃ。

卓哉 将来をね、慎重に考えてるわけですよ、俺は。

誠 (望と実里を見ながら)、うん、

卓哉 、知り合い？

誠 、いや、

卓哉は望と実里をなげなく見ている。

誠 選ぶとしたらどっち？

卓哉 え？

望 そうなんだ。

実里 それで。

望 へえ。でもじゃあどうすんの？ そしたら、

実里 んー、まあねえ、

少しして実里はイヤホンを耳に付け、スマートをいじり始める。

望も携帯電話を操作し始める。

望 最近、寿ドロドロしすぎじゃない？

実里 ああ、

望 マリコ、裏でいろいろあったらしいよ。

実里 え、そうなの？

望 なんかね、もともとはテッチャンと付き合ってたんだって。

実里 マリコ？

望 マリコ。

実里 へえ、

望 それ寝取っちゃったんだって、ユウくんが。

実里 うわ。

望 だから、それ以来テッチャン、ユウくんとききいてないみたい。

実里 、あ、確かにそうかも。

望 でしょ。

実里 え、いつから？

望 去年の、そうクリスマス少し前くらい。

実里 へえ、

誠 あの二人。

卓哉 ああ、お前は？

誠 俺は、まあ右(実里)かな。

卓哉 何点くらい？

誠 んー、まあ点数で言うのと、75点。

卓哉 ふうん、左(望)は？

誠 右は、60点くらいかなあ、

卓哉 ほう、

誠 あんまタイプじゃない。

卓哉 あそう、

誠 眼の感じがね、やっぱ右の方がいいね。

卓哉 へえ、

誠 で、そっちはどう？

卓哉 んー、俺はどっちもないかな。

誠 お、厳しいすね。点数的には？

卓哉 右が25点。で左は、42点くらいかな。

誠 あ左の方がいいんだ。

卓哉 右の方が絶対性格悪いよ。つつーかバカでしょ。

誠 ああ、まあ、でもそこが逆にね、

卓哉 、順調すか、卒論は。

誠 、最近、うるさくね？ 外、

卓哉 ああ、

誠 こっちは勉強してるんだつつうのに、

卓哉 まあまあ、

誠 あいつらんとこにミサイル落ちないかな、うまい具合に。

卓哉 そしたら俺たちも死んじゃうわ。

望 忘年会のとき、凄い不機嫌だったでしょ、テッチャン。  
実里 ああ、それでか。

望 クリスマス、二人で函館行ったらしいよ。マリコとユウくん。  
実里 うわあ。テッチャンどうしたの？ クリスマス、  
望 さあ、一人酒でもしてたんじゃない？ 男友達と飲んだとか。  
実里 かわいそう。

望 ね、

二人は再びスマートフォンをいじる。

信平が現れる。

信平 あ、よ、  
実里 あ、お疲れ様です。

誠 うまい具合にさ、奴らが死ぬギリギリぐらいのところに、ドーン  
って。

卓哉 そんなうまくいかねえよ、  
誠 、まあ、一瞬で死ぬんだったらそれでもいいか、やつらともど  
も。

卓哉 、さ、じゃあどうしますかね？ 罰ゲームは。

誠 え、なにそれ？

卓哉 なにそれじゃねえよ。

誠 全然わかんない。

卓哉 わかんないじゃねえよ。

誠 いやあ、やめようぜそういうの。

卓哉 やめないっすよ。

誠 なんでダーツで負けただけで罰ゲームなんだよ、おかしいだろ。

卓哉 お前がやろうつつたんだろ。

誠 言っただけよ。

卓哉 言っただけよ。

誠 いやいや言っただけから。

卓哉 で、考えてきたんだけど、1、「僕はバカです」って叫びな  
がら構内一周する。2、見知らぬ女性に告白する。で3、死ぬ。  
どれにする？

誠 過酷すぎだろ。てか3の選択肢とか、罰ゲームのレベルじゃね  
えよ。

卓哉 じゃあ、1と2しかないけど。

誠 、じゃあもう3の死ぬにするよ。

卓哉 マジかよ、3はなしだろ。

誠 じゃあ作んじゃねえよそんな選択肢。



信平 お疲れー。あれ、寿行ってないんだ。一望 どうもー、  
実里 まあもう4年なんで、2、3年に任せますよ。

信平 ふうん、あそう。え、じゃあ何してんの？

望 まあ何っていうあれじゃないんですけれど。

実里 なんかアッキーナからライン来て。

信平 わあアッキーナ懐かしいねえ、

実里 「来週のどっか寿行くかもー」って、先週、

望 どっかってどこだよって、

実里 ね、それきいても、「わかんない、どっかー」ですよ、

信平 アッキーナ相変わらずだね、

望 (途中で)でも今けっこう直前でピリピリしてますからね、

信平 だよね、一実里 まあでも、実際久々に会いたいからね、

望 いや、あたしは別にそうでもないんだけど、

実里 まあなんで、来たら相手してあげようと思って、

信平 あそう、じゃあアッキーナ来たらよろしく伝えといて、

望 伝えときまーす、

信平 (郭に)あ、イベントサークルの後輩です。

郭 ああ、

信平 次の日曜、だからあさって、お祭りやるんですよ。寿フェス2017っていつて、北11の公園でやるんですけれど、

郭 ああ、そうなんだ。

信平 (前のセリフと途切れることなく続けて)で、合ってるよね？

望 ああはい、いつも通りの、あれで、はい。

信平 まあ、よかったら寄ってってください。

郭 ええ、

信平 あ、ヒメカワさんなんですけど、さっきメールが来て、急用で40分くらい遅れるみたいなんですよね、

郭 ああ、そうか。

卓哉 1と2どっちがいい？

誠 どっちもやだよ。

卓哉 あれ、(何やら探しながら)あれ、

誠 どうしたの？

卓哉 あ、やべえ、302にスマホ忘れてきた。

誠 あそう、

卓哉 ちよつと見てくるわ。

誠 うん。

卓哉 逃げんなよ。

誠 逃げてえよ。

卓哉 うん、ちよつと待ってて、

卓哉は去っていく

少しして、誠はイヤホンをして音楽をきく。

望と実里はスマートフォンをいじりはじめる。

信平 だから、ちょっと待つことになっちゃうんですけど、

郭 ええ、

信平 すみません本当に。

郭 いやいや、その、ヒメカワさんは、どういう感じの人なの？

信平 ああ、頭はかなりいいですね、国家公務員総合職って、僕が去年落ちたやつも合格しましたし。

郭 へえ。

信平 僕も昨日やっと筆記が終わって、あとは人物試験だけなんですけど、去年落ちたから、今年こそは、

郭 日本は変えられそうか。

信平 まあ、数十年後の話になるでしょうけど。変えますよ、僕が。

郭 うん、いいね。

信平 ええ。あと、身長は結構低めで、そう、笑顔がねえ、すごいかわいいんですよ。

郭 へえー、いいね、ヒメカワさん。

信平 すごい癒される感じで。

郭 うん。さっきの、アッキーナ？ は？

信平 ああ、その、イベントサークルについて、途中でやめちゃったんですけど、

郭 ええ、

信平 (続けて) まあ、独特なやつで、郭さんは多分、苦手なタイプですよ、

郭 へえ、そっか。

信平 、うまくやっています？ 彼女とは、

郭 (信平を軽く叩いて) やめろよお前、

信平 や、別にそういう意味で言ったわけじゃないですけど、

郭 うまくやってるよ。

信平 ああそうですか、

郭 今年中には、結婚するかな。

信平 あ本当ですか。おめでとうございます。

郭 うん、まあ、そっちはどうなの、彼女は。

信平 いやあ僕は全然、そういう話は、  
郭 なんだ浮いた話はないのか、  
信平 ええ、まあ、  
郭 でも好きな人はいるよね。  
信平 まあ、まあ、いるといえはいますけど。  
郭 年下だもんな。  
信平 あれ教えませんでしたっけ？  
郭 知らないけど、年下って顔してるよ。  
信平 、なんですかそれ。  
郭 髪は長いよな。  
信平 や別にそんなに長くもないですけど。  
郭 なんだ。  
信平 何を根拠に言ってるんですかそれは。  
郭 勘だよ。  
信平 そうですか。  
郭 、変わってないね、ここは。  
信平 そうですね、ここは。  
郭 風景がいいね、窓から見える、あの木の感じ。  
信平 (途中で) ああ、なるほど、  
郭 うん、  
信平 でも、残念なんですけど、なくなっちゃうんですよね、ここ、近々、  
郭 え、なくなるの？  
信平 さつき、あつたじやないですか、新しい部屋とか、休憩スペースとか、  
郭 ええ、  
信平 こっちの方、全部壊されちゃうんですよね、だいぶ古くなってきてるし、  
郭 ああ、そうなんだ。

信平 ええ、あと3か月くらいで。確か。

郭 うん、(窓からの風景を見ていて) さっきの、日本ではよくやってるの？

信平 さっきの？

郭 戦争反対って。

信平 ああ、そうですね、最近は、結構。

郭 ふうん、

信平 、どうですか？ むこうは、中国は、

郭 (途中で) むこう？ ああ、

信平 どうですか？ 大きくなるのもあれですけど、やっぱり大変なんですか？

郭 まあ、大変といえは大変かな、

信平 あー、そうなんですか。

郭 いや、言うほど大変でもないけどね。前にもあったし。

信平 ああ。でも、まだ海に落ちたからよかったですけど、

郭 ああ、

信平 (続けて) ミサイル、あれ、本土に落ちたら今頃大変なことになってたでしょうね、アメリカとか巻き込んで、

郭 うん、日本は戦争する気なの？

信平 、どうですかね、でも、するっていう人もいますね、中には、

郭 ー、

信平 北朝鮮は本気みたいですね、

郭 うん、

信平 まあ、中国も、難しいですよ、立場が、

郭 まあね、

信平 (お腹をおさえて)、すいません、トイレ行ってきてもいいですか？ 少し時間かかるかもしれないんですが。

郭 ああ、どうぞ。いいよいいよ。

実里 テツチャンって、誕生日いつだっけ？

望 、えー、5月の、十日だったと思うけど。

実里 ふーん、ありがと、

実里 (携帯電話の画面を見せて) これ、テツチャンのツイッターだと

望 思わない？

望 ええ？

実里 「結局、昨日誰にも誕生日祝ってもらえなかった。」

望 、あ、あ、ぽいかも。

信平は去っていく。

実里 「要は誕生日祝ってもらえない人間ってことですよね。」  
望 ……、うわあ、

幸恵がやってくる。

幸恵 お疲れー、

実里 あ、お疲れ、

望 お疲れ、

幸恵 実里、なんかちよつと来てほしいって。

実里 え、実里？

幸恵 うん、

実里 えなんで？

幸恵 なんか申請のなんかとかで、あたしじゃよくわかんないから。

実里 申請？ なんの？

幸恵 さあ。

実里 本当自分たちじゃなんにもできないんだから。

幸恵 まあまあ。

実里 じゃあ、ちよつと行ってくるかな。

幸恵 お願いしまーす。

実里 うん。

と言いながら実里は去っていく。

望 電話どうだったの？

---

実里 だよねだよね。  
望 ……、うわあ、テツチャン荒れてんなあ。

幸恵 え、ああ、まあなんとかしたけど。

望 変なイチャモンつけられたんでしょ。

幸恵 なんか、日本が大変な時にお祭りなんかでどんちゃん騒ぎしてる場合かって、でもこっちだって3か月前から決めてんだから、文句あるなら北朝鮮に文句言ってくれればいいのに。

望 だよね。

幸恵 (続けて) つつか「どんちゃん騒ぎ」ってなに？ 昭和かよ。あいつらも4年に頼ってる場合じゃないでしょって。

望 本当に、何もできないんだからあいつら。

幸恵 テッチャンが一人で頑張ってる感じで、なんか、死にそうだった。

望 (ため息) しつかりしろよなあ、

・  
・

幸恵 (実里が去った方を少し見て) あおき、この前、4日前くらい？なんだけど、

望 んなに？

幸恵 路上ライブ終わった後に、すすきののあたりで、実里、男の人と手繋いで歩いてた。

望 えなにそれ。彼氏？

幸恵 んー、どうかなあ、

望 すごい初耳なんだけど、

幸恵 うん、

望 えなにそれ、あたしたちに隠してたわけ？

幸恵 いや隠してたとかじゃないでしょ。

望 えどんな人？

幸恵 なんか、背が高くて、お金持ちっぽそうだったかな。

望 金持ちかよ。

幸恵 (続けて) ていうか、んー、

望 なに？

幸恵 なんか、すごい、おじさんだったんだよね。

望 え、おじさんって？

幸恵　なんか40くらいなの？　スーツ着てた、  
望　へえ、

幸恵　すごい、二人とも酔ってて、実里もすごいそのおじさんとベタベタしてて、

望　え、それって、お父さんとか？

幸恵　でも、なんとかさんって、名字で呼んでたし、

望　、ええ？

幸恵　すごい、高級そうなバッグ持ってたし、

望　（食い気味に）え誰が？

幸恵　実里が。

望　うわ、うそお？

幸恵　ホントホント。

望　へえ、、

幸恵　まあ、詳しいことは分かんないけど。

望　うん、

幸恵　あたしなんかは、そういうの絶対無理だけど。

・  
・

望　路上って、けっこう遅い時間までやってんの？

幸恵　まあ、そのときによるけど、遅い時は終電前とか。

望　歌ってさあ、スタジオみたいなどこ借りて練習すんの？

幸恵　全然、カラオケとか。でもカラオケ行っちゃうと普通にほかの歌とか歌っちゃうんだよねー。

望　ヒトカラじゃん。あたしも結構ヒトカラしちゃう派。実際、自分の好きなように歌えていいよね。

幸恵　え待って、それはそうだけさあ、望は彼氏いんだから彼氏と行けばいいじゃん。

望　だって都合合わないこととかあんじゃん、それは。

幸恵　あーまあね。

望　え、幸恵はさあ、彼氏作んないの？

幸恵　あたし？　まあ、あたしは理想の人が現れたらかなあ。

望 え幸恵ってどんな人がタイプなの？

幸恵 あたしは、すごい、純粹にあたしのこととか、想ってくれる人。

望 ふうん、

幸恵 お金とかなくても、すごい、映画とかでもあるでしょ、純愛ラブストーリーみたいな、

望 幸恵って、案外ね、

幸恵 いいでしょ別に、あたし、そういうの信じる派だから。

望 でもそういうのいいよねー。

幸恵 ちよいちよい、望は優太とラブラブでやってるんでしょ？

望 (あまり乗り気でなく) まあはい、

幸恵 え、なに？

望 いや、なについてこともないんだけど、

幸恵 なになに？

望 ；、なんか、都合のいいように利用されてるような気がするんだよな。

幸恵 え、

望 や、ていうか正直あたしみたいなのと付き合ってくれてるっていう時点ですごい感謝しなきゃなんだけど、だから、それはいいんだけどね全然。

幸恵 あそう。

望 、ねえ、あたし優太のことでこの前、ふとすごいことに気付いたんだけど。

幸恵 えなに？

望 もしかしたらなんだけど、昔、一年のときだったかな、すごい、実里が高校のときの初恋がどうか言ってた時期あったじゃない？

幸恵 、ああ、そうだっけ、

望 あったじゃん、すごい、

幸恵 えー、あつたっけ？

望 その初恋相手の名前ってなんて言ったっけ？

幸恵 、いや私たぶんそれ知らないと思うけどなあ、

望 クラモトユウタって言ってなかった？



幸恵 え？ ウソ、

望 あたし、最初に優太の名前きいたときにさ、なんかどっかで聞いたことある名前だなあって、ずっと引つかかってたんだけど、

幸恵 え知らないその話、

望 や、もしかしたらたまたま同じ名前なのかもしれないけど。

幸恵 んー、

望 でも、ここにいてって言ってたから、そうなんじゃないかなって、

幸恵 うわあ、そうなんだあ、

望 うん。

幸恵 じゃあ、悪いことしちゃったね、

望 え、なにが？

幸恵 だって、ひとの初恋相手寝とっちゃって。

望 え、ちよっと待って、寝とるとかじゃないじゃん。

幸恵 ええ？

望 だって幸恵が紹介してくれたんじゃない。

幸恵 やそうだけど、

望 だって、それに、そりゃ彼氏奪ったっていうならわかるけど、別に一方的に片思いしてただけなんだから、

幸恵 このドロボウ猫。

望 そういうキャラじゃないでしょ、実里は。

幸恵 あはは、

望 そんなの、とつとと告白しないお前が悪いだろうがって、

優太 (望に) お、お疲れー、

幸恵 お、久しぶり。一望、ああ、お疲れー、

優太 あ、久しぶり。

幸恵 噂をすれば、

優太 えなに、俺の話？ 一望 (時間を確認して) え、早くない？

誠

(電話をかける) あもしもし、電話見つかった？、ああそっか。ん？ いや、もしかしたら帰っちゃったんじゃないかと思っ  
て、うん、いや、それならいいんだけど、うん、はい。(電  
話を切る)

優太が現れている。

優太 ああ、いや、ちょっと時間半端に余っちゃって、来たんだけど。  
望 あー、

優太 (続けて) どうしよう、もう行っちゃおう？

望 ー、や、時間なったら行こう。

優太 ー、了解。

誠 よ、

優太 おお、久しぶり。

誠 久しぶり。知り合い？

優太 ー、ああ、彼女、

誠 えうっそ、どっち、

優太 あの、左の方。

誠 なんだ。

優太 なんだってなんだよ。

誠 42点。

優太 なんの点数だよ？

誠 卓哉が言ってたんだよ。点数で言ったら左のほうは42点だつて。

優太 、あいつちよつとしばいておかないとダメだな

誠 (優太がスーツを着ているのを見ていて)、就活？

優太 ああ、行ってきたところ。

誠 偉いねえ。

優太 まあねえ、

誠 何系狙ってんの？

優太 さあ、出版系がいいかなとは思ってるけど。まあ、わかんねえな。

誠 なるほどね。

優太 まだやってんの？ 写真、

幸恵 、二人でどっか行くの？

望 うん、ちよつと飲みだね。

幸恵 へえ、、ラブラブですね。

望 まあねー。

望はスマートフォンをいじり出す。

望 (幸恵にスマートフォンの画面を見せて) これ、テッチャンのツイッター。

幸恵 え、テッチャンの？ 、、うわあ、なんか、、じめじめしてるね。

望 「誕生日気づいてもらえなかった」

幸恵 かわいいそうに。

望と幸恵はしばらくスマートフォンを見ている。

誠 あー、お前は？

優太 俺は全然。就活忙しくて。

誠 なんだ。俺、この前めっちゃいい写真撮ったんだよ。

優太 あ、そうなの？

誠 まあ時間できたら見に来いよ。

優太 ああ行く行く。

誠 あー、でもこの前部屋整理した時にどっかいつちゃったかもしれないなあ。

優太 マジかよ。

誠 まあ、見つかなかったらごめん。

優太 はーい。

誠 ；、噂できいたんだけどさ、北朝鮮、次はどこ狙ってくると思う？

優太 え、さあ？

誠 なんか、噂じゃあ北海道の発電所攻撃するらしいぜ。

優太 うそだろ。なんで北海道の発電所だよ。

誠 停電させて、一気に攻めるみたいな。

優太 や発電所はわかるけどさ、なんで北海道なんだよ。遠いじゃん、佐渡島とかにしてくれよ。

誠 どこだよ佐渡島って。

優太 新潟の、ちよつと離れたところにある、

誠 ああ、あんなどこ攻撃したってしようがないじゃん。

優太 じゃあ北海道だって攻撃してもしようがないだろ。東京攻撃しろよ、そういうのは。

誠 まあ、でもそういう噂だからなあ。

優太 どの噂だよ嘘くせえなあ。

誠 やこれ本当なんだって。

優太 、でもまあ、泊原発とかいつちゃったらヤバイだろうな。

誠 ああ。どうなんだろうね、そうになったら。

優太 わかんないけど、北海道ぼーんじやない？

---

望 (財布を持って)ちよつと、パン買ってくる。

幸恵 うん。

望 あ、見てていいよ。それ。

幸恵 ああうん。

誠 まあ、そんなときは、俺たちの人生そこまでだったっていうことだよ。

---

望は去っていく。

優太 まあ、俺は東京逃げてるから。

誠 マジかよ。

・  
・  
・

誠 中国は、なんで北朝鮮の味方なんかするのかね。

優太 さあ、

誠 、っていうか、中国人って、なんかパツとしない奴多いよな。

優太 ああ、

誠 あれなんなんだろうな。

優太 さあ、

誠 なんか、華のある日本人っているじゃない。

優太 うん、

誠 でも逆に、華のある中国人って、あんまり見たことないよね。

優太 まあ、あんまりパツとは出てこないけど。

誠 言葉とかも汚いじゃん、チョンチョンチャンチョンスーみたいな。

優太 なにそんなにそれ？

誠 中国語だよ、チンチンチョンチョンスルー。

優太 お前、チンチンちよんちよんするって言っただろ。

誠 だから、中国語はチンチンちよんちよんするよな言語ってことだよ。

優太 お前、ほんとやめた方がいいよそういうの。

誠 お、きたきた、

優太 お、久しぶり。

卓哉 おお、久しぶり。

優太 うん。

卓哉 なにしに来たの？

---

卓哉が戻ってくる。

優太 なにしにってことないだろ。

卓哉 だって、もうこんなところに用事なんてないでしょ？

優太 まあそうだけど、ちよつと用あつて。

卓哉 写真でも撮りにきたの？

優太 今はやってねえよ就活忙しくて。お前まだやってんの？

卓哉 俺はまあ、ぼちぼちと。

優太 へえ。お前らは何してんの？

卓哉 まあ、俺らもちよつと用あつて。な？

誠 な？じゃねえよ。

卓哉 つうかお前いちいち電話してくんなよ。

誠 なんかマズかった？

卓哉 やマズくはねえけど。電話しなくてもいいだろわざわざ。

誠 だって帰っちゃったかと思っただもん。

卓哉 心配し過ぎなんだよお前は。

優太 お前その癖直した方がいいよ早く。

誠 いいじゃないの電話くらい。

卓哉 、まあいんだけどさ。

誠 、、さつき、そこにいたコ（幸恵）、何点？

卓哉 え？ 見てねーよ。

誠 マジかよ。

卓哉 お前的には何点のコなんだよ。

誠 俺は、まあ、88点かな。

卓哉 お、高いね。

誠 （食い気味に）うん、割といい。

優太 お前42点つけたんだって？ 一卓哉 へえ。

卓哉 え、俺？

—  
幸恵はトイレに去っていく。

優太 、いや、なんでもない。

誠 お前が42点つけたの、こいつの彼女だって。

卓哉 え、マジかよ。

優太 まあね。

卓哉 あらそう。

誠 今の彼女とはどんくらい続いてんの？

優太 え、まあでも、半年ぐらいか。

誠 お、長いじゃん。

卓哉 そんなに長くもねえだろ。

誠 いやあ、こいつにしちゃあ長い方だよ。

優太 なんだよその言い草。

誠 だって、お前大学入って何人と付き合った？

優太 ……、じゅう、ににん？

卓哉 マジかよ。

優太 あ違う、13か。

卓哉 、どうかしてるだろ。

優太 お前らがモテないだけだよ。

卓哉 お、ケンカするかお前？

優太 ウソウソウソ。、まあ、俺、それだけ付き合ってきてわかったんだけどね、俺は、人を幸せにするのは、むいてないね。

誠 お、なにそれ？

優太 格言、かな。

優太 そうやって、すべったみたいにするのやめろよ。

誠 いや、すべってたから。

優太 、お前は、就活？

卓哉 あ俺？ 俺は、うーん、どうかなあ。

優太 えなに、まだ決まってるの？

卓哉 やまだわかんないなと思ってさ。

優太 もう5月だぞお前。

卓哉 いや、卒業したときにどんな仕事をしたかったっていうのはさ、卒業してからじゃないとわからないわけじゃない。

優太 ああ、なるほどね。

卓哉 その辺、人生って、やっぱり仕事と結婚が大きな要素だと思

うんだよ。だから、とりあえずどこでもいいから就職するって

うのは、なんか違うんだよね。

優太 うんうん、

卓哉 それはだつて金のために働くってことだろ？ それじゃあ金のために自分の身体売ってんのと同じじゃない。

優太 はいはい、

卓哉 世の中には、誰でもできる仕事っていうのと、その人にしかできない仕事っていうのがあるわけだよ。で、誰でもできる仕事って

うのはあんまり価値がないと思うわけ俺は。だつて誰でもできるんだからさ。だから、俺は俺にしかできない仕事をしたいわけだよ。

優太 ふうん。

卓哉 だからその辺の答えがみつかるまではね、就活はできないなど。

優太 なるほどね。

卓哉 うん、お前も、その辺は考えといた方がいいと思うよ。

優太 、まあ、俺はあんまり難しいこと考えるのやだから。

卓哉 あ、そう。

卓哉 俺、実は、デモ行ってきたんだよ。

誠 え、なに？

卓哉 やつてきたんだよ。憲法9条、改正反対って。

誠 マジかよ。勘弁してくれよ。

卓哉 (途中で) うん。や、でも結構楽しかったよ。なんか、ひとつになった感じっていうか、

誠 本当かよ。

---

幸恵が戻ってくる。

卓哉 (続けて) すっごい気分が盛り上がってきてき。終わった後に、すぐくすつきりした感じっていうか、になって、これいいなって。  
誠へえ、

卓哉 お前もやってみたらいいよ。

誠 やだよ。

卓哉 結構、大声出すから、ストレス発散にもなると思うよ。

誠 いいよ、俺は。

幸恵は優太に手を振る。

幸恵 今、いい？

優太 え、ああ、

優太は幸恵のところに行く。

幸恵 久しぶり。

優太 久しぶり。元気にやってんの？

幸恵 まあ、それなりにはね。就活？

優太 ん、まあ、

信平が戻ってくる。

信平 (お腹をさすりながら) お待たせしました。

郭 うん、長かったな、

信平 はい、なんかお腹の調子がよくなって、

郭 うん、(皆に聞こえるように) 日本人はあんまり緊張感がないね。

信平 え？ 、ああでもその、こればかりは、生まれつきというか、

郭 その話じゃなくて。戦争になるかもしれないのに、あんまり真面目に考えてないみたいだね。

信平 、ああ、やっぱり中国人は違うんですか、そういうところは。

郭 うん、、、変わらないか、

・  
・

郭 ちょっと、外回ってこようかな。

信平 ええ、

郭 ヒメカワさんもまだ来ないみたいだし、

信平 そうですね。

郭 あの噴水も見たいし。

信平 ああ。好きなんですか？ 噴水、

郭 まあね。

信平と郭は去ろうとする。



幸恵 どこ狙ってんの？

優太 ー、まあ、出版系がいいとは思ってんだけどね、とりあえ

ず、東京行こうかなと思つて、

幸恵 へえ、そうなんだ、

優太 うん、

優太 ……、そつちはどうなの？

幸恵 まあぼちぼち、

優太 あれまだやってんの？ ストリートミュージシャン、

幸恵 やつてるやつてる。

優太 増えたのお客さん？

幸恵 ー、でもやつぱり始めた頃よりは増えてるよ。何回も聴きに  
来てくれる人とかもいるし。

優太 あそう、

幸恵 うん、

優太 あれつてさ、やつぱり酔っ払いとかにからまれたりするの？

幸恵 ああ、たまにあるよ。

優太 ああやつぱあるんだそういうの。

卓哉 俺たちだつて真面目に考えてますよ。

郭 (立ち止まる)

卓哉 中国人つて、なんで自分のこと棚に上げてそういうこと言え  
るんすかね。

信平 ……、まああの…、中国人からしてみれば、日本人の方がつて  
いうね、

郭 (途中で) 人間ですからね。中国人も。日本人も。同じです。

卓哉 ……、あそうすか。

郭 (誠に) あ、すみません、華なくて、  
誠 ああ、いえ、

郭と信平は去っていく。

卓哉 俺、自衛隊になろうかな、

誠 なんてだよ。

卓哉 いい仕事だと思ふんだよな、自衛隊。

誠 ふーん、

幸恵 この前、あたしが歌い終わった後に、30歳くらいの男の人がいきなり乱入してきて、  
優太 マジで？

幸恵 うん、それで、歌い始めちゃってその人、

優太 あはは、え、それどうしたの？

幸恵 仕方ないから、歌い終わるの待ってて、

優太 うわあ、

幸恵 でも、その人、案外うまかったんだよね、歌、

優太 へえ、

幸恵 ちよつとシヨックみたいな、

優太 ああ、そうか、

幸恵 その人、帰り際にあたしに向かって、アデイダス、って言って走ってったんだけど。たぶん、アディオスって言いたかったんだと  
思うんだけどね、

優太 あはは、かっこわる、

幸恵 最後にやっちゃったなああって思って、

優太 ふふ、

幸恵 、あ、あたしさあ、この前金魚買ったんだ。

優太 え、金魚？

幸恵 うん。

優太 へえ、なんで？

幸恵 うーん、なんか、

---

望が戻ってきている。

望 なんの話してんの？

優太 ん、ああなんでも。ちよつとストリートミュージシャンって

どう、みたいな話してて、

望 ふうん、仲いいんだね、

優太 まあそんなでもないよ。(幸恵に) じゃ、また、

幸恵 うんまた、

優太は誠と卓哉の所に行く。

誠 どういう関係なんだよ。

優太 や、別に、普通に友達。

誠 へえ。

優太 …、今日はいっ一緒じゃないの？ デッパ、

誠 (途中で) ん？ ああ、デッパね、うん、最近は、あんまり、

優太 へえ、

誠 ていうか、連絡つかなくってさ、最近、

優太 デッパ？ また？

卓哉 学校でも全然見なくなったしね、

優太 ふうん、

誠 まあ、一説によると北朝鮮に拉致されたんじゃないかって話もあるけど、

卓哉 いやいや、

誠 、まああとは、北朝鮮のスパイだっていう説もあるな、

優太 なにそれ？ 一卓哉 なんてだよ。

誠 あいつちよつと朝鮮系っぽい顔してんじゃない、なんか怪しいと思ってたんだよ俺、

優太 なにが？

誠 ちよつと挙動不審みたいなどこあるじゃんあいつ、

卓哉 関係ねえよ、

誠 まああとは普通に死んだんじゃないかって説もあるけど、

卓哉 引きこもってるだけだよどうせ、デッパのことだもん、

優太 (スマートフォンを操作しながら) お前は、就活してんの？

誠 ああ、めっちゃしてるよ。

幸恵 あれ、パン買ってこなかったの？

望 いっつもものやつ売り切れだった。

幸恵 ああ、そっか。(再びスマートフォンの画面を見る)

望 あ、ごめん返して、(スマートフォンを取る)

幸恵 ああ、うん、

スマートフォンの通知音。

優太はスマートフォンを取り出して操作する。

優太 なんてこの距離でラインすんだよ。

望 なんとなく。

卓哉 嘘つけよ。

誠 嘘じゃねえよ。

卓哉 ニートが何言ってるんだよ。

誠 してるしてる。

優太 働かないと親うるさいんじゃないの？

誠 ー、まあその辺はね。どうでもいいみたい。

卓哉 なにどうでもいいって？

誠 親、別に興味ねえんだよ。俺が働くかどうかに。

卓哉 へえ、いいね。

誠 まあ、別によくもねえんだけど、

卓哉 や、俺の親はうるさいから、そういうの。

誠 へえ、

卓哉 うん。

誠 でも就活してないんでしょ？

卓哉 まあ、関係ねえからさ、親がどう思ってるとか。

優太 そうなんだ。

卓哉 、まあ。

卓哉 88点か。

誠 ーん？

卓哉 、2番にしようか。罰ゲーム、

誠 (途中で) え？

優太 え、なにそれ？

卓哉 この前ダーツで賭けやったんだよ。負けた方が罰ゲーム。

優太 お前ら暇してんな。

卓哉 まあやることねえからさ。

---

幸恵はスマートフォンをいじり始める。

---

優太はスマートフォンを操作し終える。

---

スマートフォンのお知らせ音。  
望はスマートフォンを見て、優太を少し見ってから操作し始める。

誠 え、2番ってなんだっけ。

卓哉 見知らぬ女性に告白する。

誠 え、そんな選択肢なかっただろ。

卓哉 あったよ。

誠 、あ、ごめん。(スマートフォンを見て)んー、そうかそうか、

誠は去っていく。

優太 、、あいつ、逃げたね、

卓哉 、逃げたね、

優太 追いかけてなくていいの？

卓哉 いんだよ。あいつ寂しがりだから、ほっといたら戻って来るよ。

優太 あ、そう。

・

優太 俺、この前夢見てさ。

卓哉 うん、

優太 日本にね、すごいゆっくりしたスピードで、北朝鮮のミサイルが落ちてくんだよ。

卓哉 ほう。

優太 それで、日本人が全滅しちゃうんだけど、なぜか俺だけ生き残ってんだよ。

卓哉 うん、

優太 なんか普通だったら怖いじゃんそういうの。でも、すごい、夢の中の俺は爽快感が溢れてる感じだったんだよね。ヨッシャーつつつて。

卓哉 ふうん。まあ、夢って基本的にわけわかんねえからな。

優太 まあね。

・

---

スマートフォンの通知音。

---

望 ちよつとトイレ行ってくる。

幸恵 ああ、うん。

望はスマートフォンを持ったままいなくなる。

優太 お前彼女とかできたの？

卓哉 つくってねえよ。

優太 つくってねえよ。なんだよ。

卓哉 今は、そういう時期じゃねえから。

優太 なんだよそういう時期って。

卓哉 お前はどうかんだよ、彼女は？

優太 まあ、別に普通だよ。

卓哉 俺それがわかんないんだよなあ。

優太 何が？

卓哉 なんて普通の奴と付き合ってるわけ？

優太 、さあ。

卓哉 お互いにもものすごく好きだから付き合うわけだろ？

優太 ー、まあ、俺もそう思ってたんだけどね、昔は。でも、なかなか、うまくいかないもんすよ。

卓哉 そういう妥協してたらろくな人生になんねえぞ。

優太 、いんだよ別に。

・  
・  
優太 ちょっとあいつ捕まえてくるかな。

卓哉 ほっときやいいよ。

優太 まあ、俺も時間中途半端に余ってるから。

卓哉 あそう、まあご自由に、

優太 はーい、

優太はいなくなる。

幸恵、テーブルの上に小さいダルマがあるのが目に入り、ダルマをつつく。揺れるダルマ。  
しばらくして望が戻ってくる。

---

スマートフォンの通知音。

優太はスマートフォンを取り出すが、そのまましまう。

望 あれ、優太どっかいつちやった？

幸恵 うん、いつちやった。

望 なんだよ。

幸恵 まあまあ。

望 、幸恵って、本当仲いいよね、優太と、

幸恵 ん、まあ、そんなでもないけど、

望 、あたしこの前お弁当作ってあげたんだ、

幸恵 お、偉い、

望 でしょ？ わざわざ二段の弁当箱買ってさ、

幸恵 えすごい、なに作ってあげたの？

望 一段目は、炊き込みご飯。

幸恵 おー、

望 で、二段目は豚の生姜焼きと、ウィンナーと、きんぴらごぼう。

幸恵 めっちゃ頑張ってるじゃん。

望 でしょ、あたし頑張ったでしょ？

幸恵 優太喜んでた？

望 うん、すごい、おいしかったよって、

幸恵 へえ、ウィンナー食べれるようになったんだ。

望 え、うん、え食べれなかったの？

幸恵 うん、前優太ウィンナー食べれないって言ってたから。

望 へえ、食べれるようになったんじゃない？ たぶん、

幸恵 うんそうなんだね、優太好き嫌い多いからなあ、

望 へーそうなんだ。

幸恵 チーズもやだって言ってたし、

望 へえ、

幸恵 、優太と付き合ってるのって大変じゃないの？

望 え、なんで、

幸恵 だってすぐ泣くじゃんあいつ、

望 ああ、

幸恵 俺はどうすりゃいいんだーって、

望 、そうなんだ、

幸恵 あれ、まだ見てない？

望 うん、まだ、

幸恵 あそうなんだ、じゃあそろそろ見れるよ、俺はどうすりゃい

いんだーって、

望 へえ、楽しみにしとこ、

幸恵 うん、

実里が戻ってくる。

幸恵 あ、お帰りー。

実里 ただいまー。

幸恵 どうだった？

実里 んー、ちよつとねえ、

幸恵 え、なんかあったの？

実里 んー、ちよつと幸恵、行ってあげた方がいいかも。

幸恵 え、なんで？

実里 ちよつとひと悶着あるみたいで、

幸恵 いいよいいよ、自分たちで解決させれば。いつまでも人に頼ってつちやダメだよ。

実里 あそう。

・  
・  
・

実里 来るかなあアッキーナ。

---

スマートフォンのお知らせ。

望はスマートフォンを確認するが、そのまましよう。





幸恵 この前さあ、あたし金魚買ったんだよね。

望 へえ、金魚？

幸恵 金魚。結構かわいいよ。

望 そうなんだ。

幸恵 掃除とか、ちよつと面倒だけど、

実里 でも実里だったら金魚より猫の方がいいな。一望 へえ。

幸恵 ああ。

実里 猫ってなんかすごくいい気しない？ あのおふてぶてしさってどうか、気ままな感じ？

幸恵 うん、

実里 今度ママに頼んでみよっかなあ、

幸恵 うん、

・

幸恵 就活って、自己分析が大事とかっていうよね。

実里 ああ、

幸恵 仕事ってこれから40年とかやっていくもんじやない？ やっぱ自分に合ったところ見つけないとさあ、

実里 (スマートフォンを見ながら)、うん、

幸恵 ねえ、あたしってどういう人に見えるかなあ。

実里 うん、実里？

幸恵 うん、

実里 なに？

幸恵 あたしってどういう人に見えるかなあって。

実里 ああ、幸恵はね、真面目だと思うよ、あとかわいいし。(スマートフォンをいじり出す)

幸恵 、ああ、ふーんそう。

実里 (スマートフォンを見ながら)、うん、ふふ、

望 まあ、幸恵は、どっかの音楽事務所に入るんでしょ。

---

スマートフォンの通知音。

実里はスマートフォンを取り出していじり出す。

幸恵、まあねえ、

・・・

幸恵 ちよつと、行ってくるかな。

望 寿？

幸恵 うん、

望 行ってらっしゃーい。

実里 行ってらー。

幸恵は去っていく。

望 幸恵、いいよね夢追ってるって感じで。

実里 ああ、

望 ミュージシャンってやっぱ難しいのかな。

実里 難しいんじゃない？（スマートフォンを置く）ってかあんまりミュージシャンって顔じゃなくない？

望 まあ、でも、あいつも結構歌うまいからなあ、

実里 （食い気味に）えー実里の方がうまくない？

望 だって、それは実里がうま過ぎるんだよ、カラオケとか一緒に行きたくないもん、自分の下手さに絶望して、

実里 えーほんと、実里うま過ぎ？

望 ていうか実里がミュージシャンになればいんじゃない？

実里 えー？ なるかなあ？

望 だってむっちゃうまいじゃん。

実里 じゃあ目指しちやおつかない。

望 就活とかいいから目指しちやいなよマジ、

実里 マジ？ イエーイ。あ、望さあ、夜空いてる？

望 え、なんで？

実里 久々にカラオケ行きたいなと思って。

望 ええ？ さっきやだって言ったばっかりじゃん。

実里 実里の美声きかせてやるから。

望 うーん、でも今日用事入ってんだよねえ。

実里 ええ？ 何の用事？

望 ちよつと、彼氏と飲みに行くから。

実里 えーちよつと、彼氏と実里どっちが大事なの？

望 ごめんね、また今度。

実里 ちえ、

望 (続けて) 今日是一人で行ってきて。

実里 えーやだよ、ヒトカラとか友達いない人がすることじゃん。無理むり。

望 、ああ、ねー。

実里、スマートフォンをいじりだす。

それを見て、望もスマートフォンをいじりだす。少ししてやめる。

望 、、あたしたちって、なんだかんだで、大学入ってからずっと一緒にいるよね。

実里 ああ、まあねえ。

望 就職とかしても、寂しくて電話とかしちゃうかも。

実里 彼氏にすりゃいいじゃん。

望 でもだってそんなとき彼氏いないかもしれないじゃん。

実里 ふーん、でも、実里はあんまりしないかなあ、そういうの、

望 え、そう？ 全然してきていいよ。

実里 えだって迷惑じゃん。

望 え、全然迷惑じゃないよ。

実里 まあ、大学卒業したのに、大学の人とするまなくてもね、

望 、ああ、そっか、まあ、確かにね、

幸恵が戻ってくる。

実里 あれ、早いね。

幸恵 逃げてきた。

望 なんぞ？

幸恵 だって、すごい空気悪いんだもんむこう。ヤバイよ。

実里 でしょでしょ。

幸恵 すっごいピリピリしてんだもん。

実里 今年の寿フェスはあんまり期待できないかなあ。

幸恵 うん、

実里 ていうか、開催されんのかどうかも怪しそうだしね。

望 えそんなレベルなの？

実里 あいつら公園使うの申請してなかったんだよ。

望 え？ ー幸恵 ね。

実里 今すぐ電話するなり直接行くなりして、頭下げてでもなんでもいいから使わせてもらえって言ったけど。

望 えなんで今まで気付かなかったの。

実里 なんか、その辺全部テッチャン任せになってたみたい。

望 うわあ、ヤバイね、今年は。

実里 うん。

・  
・  
・

幸恵 、実里さ、

実里 ん？

幸恵 あのおじさん彼氏？

実里 え、どのおじさん？

幸恵 すすきの手繋いで歩いてた、スーツのおじさん、

実里 、、 ああ、え、メガネ掛けてた？

幸恵 、、 掛けてなかったかな、

実里 、 彼氏なわけないじゃん、

幸恵 えじゃあなんの人なの？

実里 全然、他人、

幸恵 えなんで他人と手繋いで歩いてるの？

実里 うーん、他人って言ったら違うけど、、

幸恵 、 援助交際？

※無料版はここまでです。ご覧くださりありがとうございます。

全編はクラアク芸術堂の販売ページ（左のURL）から購入できます。

ありがとうございます。

<http://www.clark-artcompany.com/public>

## あとがき

この作品の初演は2012年で、2016年に再演の機会をいただきました。2012年の当時は、僕の周りではスマートフォンを使っているのは半分くらい、ツイッターはメジャーになりつつあり、フェイスブックはまだあまり浸透してなかったような気がします。ラインはまだありませんでした。なので、2012年の初演からは、少しそういったところも書き直さなくてはならなくなりました。4年経っただけで随分と環境は変わっていくものです。当時は日本の総理大臣が1年おきに交代していた時代で、「なにをやっても現状から抜け出せない。」とか「誰が総理大臣になろうか一緒だ。」とか「この不況からはずっと逃れられない。」というような、あきらめの雰囲気や日本に漂っていたような気がしました。「しらけてた」というのに近いかもしれません。なにも、どうにもならない、という閉塞感があつたような気がしました。社会に興味がないばかりか、自分の生にすらそんなに執着がない、別にそんなに生きていてすごく楽しいということもないし、まあ、なかで死んだとしてもそれはそれで仕方がない。それがなにか、「今の若い世代は達観している」ということにつながっていたのかもしれない。大学を卒業して、就職した人もいれば、フリーターになった人もいて、働かない人もいて、夢を追う人もいて、僕は夢を追って（という感覚はあまりないけれど）舞台の演出やら脚本やらをやっていて、しかしやはり、少なくとも人が、「自分が今どこに向かっているのか、どこに向かうべきか」がわからないうような感じがします。「自分がやりたいことはよくわからないけれど、しかし今やっているこれではない。」というような感覚。もつともっと成熟した大人から言わせれば、「つべこべ言ってねえで働いて結婚しろ」くらいの笑い話かもしれませんが、やはりそれは、もつと若い世代にとってみれば、深刻に感じられる問題なのだと思います。

## 《上演記録》

札幌演劇シーズン2016・夏・劇団アトリエ『学生ダイアリー』

2016年7月26日 小佐部明広

## 【キャスト】

植村望	柴田知佳
大橋実里	びす子
篠原幸恵	山崎亜莉紗（パインソー）
蔵元優太	柴野嵩大（劇団しろちゃん）
重野誠	村上友大
柳田卓哉	信山E紘希（座・れら）
谷川信平	井上嵩之（劇団・木製ボイジャーⅡ号）
郭曉偉	有田哲（劇団アトリエ）

## 【スタッフ】

演出・脚本 小佐部明広  
舞台 米沢 春花（劇団Fireworks）  
照明 芋田 桃子  
音響 渥美 光（劇団うみねこ）  
衣装 新谷 菜摘（劇団アトリエ）  
制作・宣伝美術 山木 眞綾

## 【日程】

2016年7月30日（土） 14時／19時  
31日（日） 14時／19時

8月	1日(月)	20時
	2日(火)	20時
	3日(水)	20時
	4日(木)	20時
	5日(金)	20時
	6日(土)	13時／17時

【場所】

扇谷記念スタジオシアターZOO

【料金】

一般 3000円  
学生 1500円

※実際の上演内容と一部異なる場合があります。ご了承ください。

2016年7月27日 第1刷制作

2017年10月4日 第2刷制作

《『学生ダイアリー』の上演について》

「一般前売入場料2000円未満」または「公演予算100万円以下」の場合は、脚本使用料は**無料**です。それ以外の場合は、協議の上、総予算の3%程度を脚本使用料とします。上演のお問い合わせはクラアク芸術堂企画運営委員会まで。

【クラアク芸術堂企画運営委員会】